

	VI2A ②	公的要約筆記利用しない理由手帳なし	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答
	VI2A ③	公的要約筆記利用しない理由条件外	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答
	VI2A ④	公的要約筆記利用しない理由家族支援	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答
	VI2A ⑤	公的要約筆記利用しない理由機会なし	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない理由を回答
	VI2A ⑥	公的要約筆記利用しないが利用希望	はい いいえ	無回答 利用ありではいと回答
	VI2A ⑦	公的要約筆記利用しない理由その他	()	
公的要約筆記派遣事業利用頻度	VI2B ①	公的要約筆記利用よく利用	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回答 よく利用とたまに利用を回答
	VI2B ②	公的要約筆記利用たまに利用	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回答 よく利用とたまに利用を回答
	VI2B ③	公的要約筆記利用盲ろう通訳が使えないとき	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回答

2. 単純集計

アンケートの単純集計結果を表一3に示す。
聴覚障害はあるが視覚障害のない人が18人回

答していたため、その回答は除外して集計・分析することとした。

表一3 アンケート単純集計結果

大分類 (略記)	設問番号	小分類 (略記)	集計した回答	人数	構成比
あなたの障害見えにくくなったのは	I1⑥	視覚障害有無	あり	113	86.3%
あなたの障害聞こえにくくなったのは	I2⑤	聴覚障害有無	あり	131	100%
これ以降は n=113 で集計					

日常音声入手手段 1人との会話	II1①	1対1会話補聴器	はい	51	45.1%
	II1②	1対1会話筆談	はい	81	71.7%
	II1③	1対1会話手話・要約・盲ろう通訳	はい	85	75.2%
	II1④	1対1会話その他			
日常音声入手手段 数人との会話	II2①	数人会話補聴器	はい	43	38.1%
	II2②	数人会話復唱	はい	36	31.9%
	II2③	数人会話手話・要約・盲ろう通訳	はい	92	81.4%
	II2④	数人会話その他			
日常音声入手手段 多人数集まり	II3①	多人数会話補聴器	はい	38	33.6%
	II3②	多人数会話復唱	はい	32	28.3%
	II3③	多人数会話手話・要約・盲ろう通訳	はい	100	88.5%
	II3④	多人数会話その他			
見えにくさ 目の前の人との会話	III1①	目の前会話薄暗くても可	はい	8	7.1%
	III1②	目の前会話明るいなら可	はい	52	46.0%
	III1③	目の前会話明るくても不可	はい	49	43.4%
	III1④	目の前会話見えにくさその他			
見えにくさ 机上の本や資料	III2①	読書ふつう文字で可	はい	29	25.7%
	III2②	読書拡大文字で可	はい	58	51.3%
	III2③	読書拡大鏡で可	はい	90	79.6%
	III2④	読書見えにくさその他			
見えにくさ 机上のパソコン	III3①	パソコン画面色変更で可	はい	70	61.9%
	III3②	パソコン画面フォント種で可	はい	57	50.4%
	III3③	パソコン画面文字大きさを可	はい	81	71.7%
	III3④	パソコン画面見えにくさその他			
見えにくさ 2m離れた黒板やスクリーン	III4①	黒板文字大きさを可	はい	45	39.8%
	III4②	黒板大きな図なら可	はい	45	39.8%
	III4③	黒板単眼鏡で可	はい	29	25.7%
	III4④	黒板見えにくさその他			
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用有無と使わない理由	IV1A	補聴器利用有無	利用していない (利用有)	48 (65)	42.5% (57.5%)
	IV1A①	補聴器利用しない理由効果なし	効果なし	27	23.9%
	IV1A②	補聴器利用しない理由わずらわしい	わずらわしい	4	3.5%
	IV1A③	補聴器利用しない理由値段が高い	値段が高い	0	0%

	IV1A④	補聴器利用しない理由その他			
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用目の前の人の会話	IV1Ba①	補聴器利用目の前会話だいたい	はい	37	32.7%
	IV1Ba②	補聴器利用目の前会話よければだいたい	はい	28	24.8%
	IV1Ba③	補聴器利用目の前会話半分	はい	21	18.6%
	IV1Ba④	補聴器利用目の前会話よければ半分	はい	26	23.0%
	IV1Ba⑤	補聴器利用目の前会話その他			
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用5人ぐらゐの話し合い	IV1Bb①	補聴器利用5人会話だいたい	はい	4	3.5%
	IV1Bb②	補聴器利用5人会話ループ	はい	16	14.2%
	IV1Bb③	補聴器利用5人会話マイク	はい	17	15.0%
	IV1Bb④	補聴器利用5人会話よければだいたい	はい	16	14.2%
	IV1Bb⑤	補聴器利用5人会話復唱	はい	37	32.7%
	IV1Bb⑥	補聴器利用5人会話その他			
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用20人ぐらゐの話し合い	IV1Bc①	補聴器利用20人会話だいたい	はい	2	1.8%
	IV1Bc②	補聴器利用20人会話ループ	はい	13	11.5%
	IV1Bc③	補聴器利用20人会話マイク	はい	16	14.2%
	IV1Bc④	補聴器利用20人会話手話通訳	はい	20	17.7%
	IV1Bc⑤	補聴器利用20人会話要約筆記	はい	26	23.0%
	IV1Bc⑥	補聴器利用20人会話復唱	はい	32	28.3%
	IV1Bc⑦	補聴器利用20人会話その他			
通訳利用有無と使わない理由	V1A	通訳利用有無	利用していない (利用有)	13 (100)	11.5% (88.5%)
	V1A①	通訳利用しない理由方法不明	はい	2	1.8%
	V1A②	通訳利用しない理由知合いなし	はい	2	1.8%
	V1A③	通訳利用しない理由機会なし	はい	6	5.3%

	V1A④	通訳利用しない理由気を使う	はい	2	1.8%
	V1A⑤	通訳利用しない理由その他			
通訳利用手話通訳利用有無と場面	V1Ba	手話通訳利用有無	利用している	50	44.2%
	V1Ba①	手話通訳利用会議	はい	40	35.4%
	V1Ba②	手話通訳利用講演	はい	41	36.3%
	V1Ba③	手話通訳利用病院	はい	40	35.4%
	V1Ba④	手話通訳利用授業	はい	15	13.3%
	V1Ba⑤	手話通訳利用その他			
通訳利用盲ろう者向け通訳・介助員利用有無と場面	V1Bb	盲ろう通訳利用有無	利用している	86	76.1%
	V1Bb①	盲ろう通訳利用会議	はい	72	63.7%
	V1Bb②	盲ろう通訳利用講演	はい	77	68.1%
	V1Bb③	盲ろう通訳利用病院	はい	69	61.1%
	V1Bb④	盲ろう通訳利用授業	はい	17	15.0%
	V1Bb⑤	盲ろう通訳利用その他			
通訳利用要約筆記利用有無と場面	V1Bc	要約筆記利用有無	利用している	41	36.3%
	V1Bc①	要約筆記利用会議	はい	28	24.8%
	V1Bc②	要約筆記利用講演	はい	32	28.3%
	V1Bc③	要約筆記利用病院	はい	21	18.6%
	V1Bc④	要約筆記利用授業	はい	8	7.1%
	V1Bc⑤	要約筆記利用その他			
通訳利用要約筆記利用要約筆記種類	V1Bd①	要約筆記利用手書きスクリーン	はい	17	15.0%
	V1Bd②	要約筆記利用手書きタイク	はい	25	22.1%
	V1Bd③	要約筆記利用パソコンスクリーン	はい	23	20.4%
	V1Bd④	要約筆記利用パソコン手元	はい	18	15.9%
	V1Bd⑤	要約筆記利用パソコンタイク	はい	18	15.9%
	V1Bd⑥	要約筆記利用その他			
公的盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業利用有無と使わない理由	VI1A	公的盲ろう通訳利用有無	利用していない (利用有)	24 (89)	21.2% (78.8%)
	VI1A①	公的盲ろう通訳利用しない理由方法不明	はい	1	0.9%
	VI1A②	公的盲ろう通訳利用しない理由手帳なし	はい	1	0.9%
	VI1A③	公的盲ろう通訳利用しない理由条件外	はい	3	2.7%
	VI1A④	公的盲ろう通訳利用しない理由家族支援	はい	13	11.5%

	VI1A⑤	公的盲ろう通訳利用しない理由機会なし	はい	6	5.3%
	VI1A⑥	公的盲ろう通訳利用しないが利用希望	はい	11	9.7%
	VI1A⑦	公的盲ろう通訳利用しない理由その他			
公的盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業利用頻度	VI1B①	公的盲ろう通訳利用よく利用	はい	64	56.6%
	VI1B②	公的盲ろう通訳利用たまに利用	はい	20	17.7%
	VI1B③	公的盲ろう通訳利用利用したことあり	はい	5	4.4%
公的要約筆記派遣事業利用有無と使わない理由	VI2A	公的要約筆記利用有無	利用していない (利用有)	81 (32)	71.7% (28.3%)
	VI2A①	公的要約筆記利用しない理由方法不明	はい	4	3.5%
	VI2A②	公的要約筆記利用しない理由手帳なし	はい	1	0.9%
	VI2A③	公的要約筆記利用しない理由条件外	はい	3	2.7%
	VI2A④	公的要約筆記利用しない理由家族支援	はい	11	9.7%
	VI2A⑤	公的要約筆記利用しない理由機会なし	はい	7	6.2%
	VI2A⑥	公的要約筆記利用しないが利用希望	はい	14	12.4%
	VI2A⑦	公的要約筆記利用しない理由その他			
公的要約筆記派遣事業利用頻度	VI2B①	公的要約筆記利用よく利用	はい	16	14.2%
	VI2B②	公的要約筆記利用たまに利用	はい	14	12.4%
	VI2B③	公的要約筆記利用盲ろう通訳が使えないとき	はい	10	8.8%

3. クロス集計による分析

視覚障害ありの113人の回答に対して各質問

項目をクロス集計した結果を以下に示す。

表4に回答者の居住県を示す。39都道府県から回答が得られた。

表—4 回答者の居住県

都道府県	人数	構成比
愛知	9	8.0%
愛媛	1	0.9%
茨城	3	2.7%
沖縄	7	6.2%
岩手	1	0.9%
岐阜	1	0.9%
宮崎	1	0.9%
宮城	2	1.8%
京都	3	2.7%
熊本	2	1.8%
群馬	4	3.5%
広島	1	0.9%
香川	3	2.7%
埼玉	4	3.5%
三重	3	2.7%
山形	1	0.9%
山口	6	5.3%
滋賀	2	1.8%
鹿児島	2	1.8%
秋田	2	1.8%
新潟	3	2.7%
神奈川	4	3.5%
静岡	4	3.5%
石川	1	0.9%
千葉	9	8.0%
大阪	4	3.5%
大分	2	1.8%
長崎	1	0.9%
長野	1	0.9%
鳥取	3	2.7%
東京	3	2.7%

徳島	2	1.8%
栃木	1	0.9%
富山	1	0.9%
福井	1	0.9%
福岡	4	3.5%
福島	2	1.8%
兵庫	6	5.3%
北海道	2	1.8%
無回答	1	0.9%
総計	113	100.0%

表一5に回答者の年齢構成を示す。50～70代を中心に回答が得られた。

表一5 回答者の年齢構成

年代	人数	構成比
20歳未満		0%
20代	4	3.5%
30代	11	9.7%
40代	18	15.9%
50代	24	21.2%
60代	31	27.4%
70歳以上	23	20.4%
無回答	2	1.8%
総計	113	100.0%

表一6に回答者の視覚障害等級と聴覚障害等級の状況を示す。アンケート質問項目とデータクリーニングの項で述べたように、聴覚障害の質問項目で1級や5級と回答したアンケートはそのまま採用している。身体障害者福祉法によれば、聴覚障害等級としては、2級3級4級6級はあるが、1級と5級は規定されていない。今回の聴覚障害の質問項目で1級や5級と回答した人が15人（1割以上）あった理由として、「自治体が聴覚障害に伴う言語障害もしくは平衡機能障害に該当するものについて、その等級

の指数を合算したものを聴覚障害の等級として扱っていると考えられる」（調査報告 盲ろう者（視覚聴覚二重障害者）における身体障害者手帳の交付状況の実態—自治体を対象とした全国調査から— 前田晃秀 社会福祉学第56巻第4号 P102 2016年2月）といった点があげられるであろう。

表一6 回答者の視覚障害等級と聴覚障害等級

視覚障害等級	聴覚障害等級									
	1	2	3	4	5	6	分からない	無回答	総計	構成比
1	9	6	1	4		5			25	24.3%
2	5	25	2	4	2	8	1	2	49	41.5%
3	1	5	1	2					9	6.7%
4		2	1						3	2.5%
5		4							4	2.0%
6		3							3	3.9%
無回答		12	1	1				6	20	19.0%
総計	15	57	6	11	2	13	1	8	113	100%
構成比	14.8%	44.8%	5.5%	9.9%	1.6%	11.1%	1.6%	10.8%	100%	

以下に、主な質問項目とその回答を示す。「要約筆記による盲ろう者支援の在り方に関する研究」アンケートの質問用紙を参照しながら確認

していただきたい。また、ここに集計していないものについては、表一3 アンケート単純集計結果を参照していただきたい。

表一7

Ⅱ 日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

1 1人の人との会話

① 補聴器や人工内耳、FM補聴機器等を使い発言者の声を聞く

視覚障害等級	聴覚障害等級								
	1	2	3	4	5	6	分からない	無回答	総計
1	3	3	1	4		5			16
2		4	2	3	2	8		1	20
3		1	1	2					4
4		1							1
5		1							1
6		1							1
無回答		6						2	8
総計	3	17	4	9	2	13		3	51

表一 8

Ⅱ 日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

1 1人の人との会話

② 相手に筆談、手話をしてもらう

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回答	
1	7	6		1					14
2	5	23	1	4		1	1		35
3	1	5	1	1					8
4		2	1						3
5		3							3
6		3							3
無回答		9	1	1				4	15
総計	13	51	4	7		1	1	4	81

表一 9

Ⅱ 日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

1 1人の人との会話

③ 手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を使う

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回答	
1	5	6	1	1		2			15
2	4	23	1	3	1	8	1		41
3	1	4		2					7
4		2	1						3
5		2							2
6		2							2
無回答		8	1	1				5	15
総計	10	47	4	7	1	10	1	5	85

上記の3つの表から、盲ろう者が1人の人との1対1の会話では、相手に筆談や手話をしてもらったり、手話通訳者や要約筆記者、盲ろう

者向け通訳・介助員に支援してもらったりといったことが多いことがわかる。

表—10

- Ⅱ 日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか
 2 数人の人との会話
 ① 補聴器や人工内耳、FM補聴機器等を使い発言者の声を聞く

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回答	
1	3	2	1	4		5			15
2		2	2	2	2	7	1		16
3		1	1	2					4
4									
5		1							1
6		1							1
無回答	3	4					2		6
総計		11	4	8	2	12	3		43

表—11

- Ⅱ 日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか
 2 数人の人との会話
 ② その場にいる人に耳元で復唱してもらう

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回答	
1	3	1	1	3		4			12
2		3	2	3	1	6		1	16
3		1	1						2
4									
5		1							1
6		1							1
無回答		2						2	4
総計	3	9	4	6	1	10		3	36

表一12

- II 日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか
 2 数人の人との会話
 ③ 手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を使う

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回答	
1	9	6	1	2		2			20
2	4	23	1	3	1	7	1		40
3	1	4		2					7
4		2	1						3
5		3							3
6		2							2
無回答		10	1	1				5	17
総計	14	50	4	8	1	9	1	5	92

上記の3つの表から、盲ろう者が数人の人との会話では、手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員に支援してもらうことが多いのわかる。

表一13

- II 日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか
 3 多数の人の参加する集まり
 ① 補聴器や人工内耳、FM補聴機器等を使い発言者の声を聞く

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	3	1	1	4		5			14
2		2	1	2	2	6		1	14
3		1	1	1					3
4		1							1
5									
6		1							1
無回答		3						2	5
総計	3	9	3	7	2	11		3	38

表一14

Ⅱ 日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

3 多数の人の参加する集まり

② その場にいる人に耳元で復唱してもらう

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	3	1	1	3		4			12
2		4	1	2	1	6		1	15
3		1							1
4									
5									
6		1							1
無回答		1						2	3
総計	3	8	2	5	1	10		3	32

表一15

Ⅱ 日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

3 多数の人の参加する集まり

③ 手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を使う

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	9	5	1	2		3			20
2	4	24	2	4	1	7	1		43
3	1	5	1	2					9
4		2	1						3
5		4							4
6		3							3
無回答		11	1	1				5	18
総計	14	54	6	9	1	10	1	5	100

上記の3つの表から、盲ろう者が多数の人の参加する集まりでは、手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を利用することが多いのわかる。

表—16

Ⅲ それぞれの場面での見えにくさについて

1 目の前にいる人との会話で相手の口形を見る

視覚障害等級	薄暗くても おおよそわ かる	明るいところ でならお およそわか る	明るいところ でもよく わからない	総計
1		7	12	19
2	4	26	18	48
3	1	5	3	9
4		1	3	4
5		3	1	4
6		1	3	4
無回答	3	9	9	21
総計	8	52	49	109

それぞれの場面での見えにくさについては、明るいところならおおよそわかるのが全体の半数近かったが、逆に明るいところでもよくわからない人も半数近くいることが分かった。また本稿には詳細データは記載しなかったが、回答のコメントには、少数ではあるが「明るすぎるとよくわからない」というものもあった。

表—17

Ⅲ それぞれの場面での見えにくさについて

2 机の上の本や資料を読む

3 机の上のパソコンの画面を読む

4 2メートルくらい離れた黒板やスクリーンを見る

視覚障害等級	ふつうの文字でも顔を近づければ読める	拡大文字にすれば読める	拡大鏡・拡大読書器を使えば読める	白黒反転など背景色と文字の色を調整すれば読める	MSゴシックなど、フォントを変えれば読める	文字の大きさを変えれば読める	大きな文字なら読める	大きな図なら見える	単眼鏡（遠くの文字を拡大する）等を使えば見える
1	3	14	18	14	11	18	6	7	5

2	12	26	42	31	28	32	17	17	9
3	2	4	9	8	6	8	5	5	4
4	1	2	3	3	1	3	1	2	1
5	3	0	3	2	1	4	3	3	2
6	1	1	3	2	2	2	1	1	1
無回答	7	11	12	11	8	14	12	10	7
総計	29	58	90	71	57	81	45	45	29
構成比	25.7%	51.3%	79.6%	62.8%	50.4%	71.7%	39.8%	39.8%	25.7%

(複数回答のため構成比の分母はそれぞれ n=113 で試算した)

文字の見え方についての設問では、半数以上が文字の大きさやフォント、色などを工夫すれば読めると回答している。

表—18

V 通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

a 手話通訳を利用する

視覚障害等級	手話通訳を利用する	聴覚障害等級								総計
		1	2	3	4	5	6	分からない	無回答	
1	あり	5	3							8
	なし	4	3	1	4		5			17
2	あり	4	15	1	3					23
	なし	1	10	1	1	2	8	1	2	26
3	あり	1	4	1	1					7
	なし		1		1					2
4	あり		2							2
	なし			1						1
5	あり		2							2
	なし		2							2
6	あり									
	なし		3							3

無回答	あり		5		1				2	8
	なし		7	1					4	12
総計		15	57	6	11	2	13	1	8	113

50人が手話通訳を利用しており、利用したことがないのは63人であった。

表一19

V 通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

a 手話通訳を利用する

① 会議の場面

② 講演や研修等の場面

③ 病院や役所などの場面

④ 学校での授業の場面

視覚障害等級	手話通訳利用 会議	手話通訳利用 講演	手話通訳利用 病院	手話通訳利用 授業	総計
1	7	7	8	2	24
2	17	18	18	7	60
3	5	6	4	2	17
4	2	1	2		5
5	2	2	2	2	8
6					
無回答	7	7	6	2	22
総計	40	41	40	15	

手話通訳の利用の場面としては、会議、講演、病院での利用がほぼ同数で、それぞれ40人ほど36%程度の人が利用していると回答した。

表一20

V 通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

b 盲ろう者向け通訳・介助員を利用する

視覚障害等級	盲ろう通訳利用有無	聴覚障害等級								総計
		1	2	3	4	5	6	分からない	無回答	
1	あり	8	6	1	3		3			21
	なし	1			1		2			4
2	あり	3	24	2	3	1	7			40
	なし	2	1		1	1	1	1	2	9
3	あり	1	5	1	2					9
	なし									
4	あり		1	1						2
	なし		1							1
5	あり		2							2
	なし		2							2
6	あり		3							3
	なし									
無回答	あり		3	1					5	9
	なし		9		1				1	11
総計		15	57	6	11	2	13	1	8	113

盲ろう者向け通訳・介助員を 86 人 (76.1%) が利用しており、利用したことがないのは 27 人であった。

表—21

V 通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

b 盲ろう者向け通訳・介助員を利用する

① 会議の場面

視覚障害等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分からない	無回答	
1	7	5	1	2		3			18
2	3	20	1	3		7			34
3	1	3		1					5
4		1	1						2

5		2						2
6		3						3
無回答		2	1				5	8
総計	11	36	4	6		10	5	72

盲ろう者向け通訳・介助員を会議で利用しているのは72人で全体の63.7%であった。

表—22

V 通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

b 盲ろう者向け通訳・介助員を利用する

② 講演や研修等の場面

視覚障害 等級	聴覚障害等級							分から ない	無回 答	総計
	1	2	3	4	5	6				
1	8	5	1	2		3			19	
2	3	21	2	3	1	7			37	
3	1	4	1	1					7	
4		1	1						2	
5		2							2	
6		2							2	
無回答		2	1					5	8	
総計	12	37	6	6	1	10		5	77	

盲ろう者向け通訳・介助員を講演や研修等で利用しているのは77人で全体の68.1%であった。

表—23

V 通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

b 盲ろう者向け通訳・介助員を利用する

③ 病院や役所などの場面

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	5	5	1	3		3			17
2	2	19	1	3	1	6			32
3	1	3		2					6
4		1	1						2
5		1							1
6		2							2
無回答		3	1					5	9
総計	8	34	4	8	1	9		5	69

盲ろう者向け通訳・介助員を病院や役所などに出かけるときに利用しているのは 69 人で全体の 61.1%であった。

表一24

V 通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

b 盲ろう者向け通訳・介助員を利用する

④ 学校での授業の場面

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	1	2							3
2		6		2					8
3	1	1							2
4			1						1
5		1							1
6		1							1
無回答								1	1
総計	2	11	1	2				1	17

盲ろう者向け通訳・介助員を学校での授業で利用しているのは 17 人で全体の 15% であった。

表—25

V 通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

c 要約筆記を利用する

視覚障害等級	要約筆記利用有無	聴覚障害等級								
		1	2	3	4	5	6	分からない	無回答	総計
1	あり	3	3	1			1			8
	なし	6	3		4		4			17
2	あり	2	10		3		1	1		17
	なし	3	15	2	1	2	7		2	32
3	あり		2	1	1					4
	なし	1	3		1					5
4	あり			1						1
	なし		2							2
5	あり									
	なし		4							4
6	あり		1							1
	なし		2							2
無回答	あり		6	1	1				2	10
	なし		6						4	10
総計		15	57	6	11	2	13	1	8	113

要約筆記を利用しているのは 41 人で、全体の 36.3%であった。

表—26

V 通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

c 要約筆記を利用する

① 会議の場面

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	1	1	1						3
2	1	7		3		1	1		13
3			1	1					2
4									
5									
6		1							1
無回答		5	1	1				2	9
総計	2	14	3	5		1	1	2	28

要約筆記を会議の場面で利用しているのは 28 人で全体の 24.8%であった。

表—27

V 通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

B 利用している

c 要約筆記を利用する

② 講演や研修等の場面

視覚障害 等級	聴覚障害等級								総計
	1	2	3	4	5	6	分から ない	無回 答	
1	1	2	1						4
2	1	8		3		1	1		14
3		1	1	1					3
4									
5									
6		1							1
無回答		6	1	1				2	10
総計	2	18	3	5		1	1	2	32

要約筆記を講演や研修等の場面で利用しているのは 32 人で全体の 28.3%であった。